

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2692800028		
法人名	医療法人 啓信会		
事業所名	グループホーム リエゾン萌木の村		
所在地	京都府城陽市寺田新池65-1		
自己評価作成日	平成29年2月12日	評価結果市町村受理日	平成29年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2692800028-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2692800028-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年3月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

下肢筋力の低下をしないように座って出来る運動だけではなく、広い空間を使い、生活の中に歩く時間を作るようにしている。下肢筋力低下による車椅子使用者が出ないように職員の意識を高く持っている。地域密着型として、地域で行われる催しに出来るだけ参加するようにしている。催しに参加する事で知り合いや近所の方々に会うことも多くある。近隣の方から野菜が届くなど地域との交流も図れている。またご家族の面会や協力もあり、外出や外泊にも出かけられる。施設の行事などにも参加していただき良好な関係が築けている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は地域との関わりを大切にし、左義長祭りや運動会、ふれあい祭りなど地域行事に利用者と一緒に参加し交流を図っています。散歩や買い物の際には地域の方との会話を心がけ近隣の方から野菜などが届くこともあり、顔なじみの関係づくりに努めています。また、併設の事業所にサックスやハーモニカ演奏、人形劇、銭太鼓等のボランティアの来訪がある時は参加し関わりが持てるようにしています。職員は利用者が楽しめる機会作りに取り組み、イベントを企画したり外出の機会も多く設けています。花見や紅葉狩り等季節毎の外出の他、その日に希望を聞き喫茶店やドライブなど利用者の思いに添った個別や少人数、全体での外出を実施しています。更にいちご狩りなど家族と一緒に出かける機会も作り、家族との関わりも大切に支援しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「心地よい空間 地域で暮らす 憩いの我が家」を事務所前にて掲示し共有して実践に努めている。	事業所独自の理念を事務所前に掲示すると共にパンフレットに掲載することで職員に周知しています。理念や理念に対する思いを新任や現任の職員に伝えながら、自分だったらどう接してほしいのか、常に利用者の立場に立って考え、利用者の居心地の良い場所が提供できるよう取り組み、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	左義長や運動会など地域のイベントに参加し、交流している。 顔なじみの関係づくりに努めている。	回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て、運動会やふれあい祭り、防災訓練などの地域行事に利用者と一緒に参加しています。散歩や買い物時には地域の方と挨拶を交わし、野菜などをもらうこともあります。また、保育園との交流や併設事業所にサックスやハーモニカ演奏、人形劇、銭太鼓等のボランティアの訪問があり利用者と共に参加し楽しむなど地域との関わりも少しずつ広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて情報提供できる場をもうけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開き、事業所の入退去等の状況や行事報告などを行い、御利用者、その家族、地域の役員の方にご意見を頂いている。	会議は民生委員や家族、利用者、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て併設の事業所と合同で2か月に1度開催しています。利用者の状況や行事、事故報告等を行い意見交換を行っています。参加者から事業所で介護教室などできないかとの意見を受け、今年度末に開催を予定するなど、出された意見は速やかに検討し実施するよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて地域包括支援センターや市役所の方と連絡を取り合い、協力関係を築いている。	運営推進会議に市職員の参加があり事業所への理解を得ています。議事録は次回の会議時に渡しています。また、市職員の出席する地域密着事業所連絡会に参加し情報やアドバイスをもらったり、何かあれば随時相談するなど関わりを持つようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修など、学ぶ機会あり。 利用者に対し、拘束をしない援助をしている。	年1回身体拘束についての法人内研修を受講した職員が、全職員に伝達し理解を深めています。玄関は施錠していますが、利用者に自由に外に出られるようにテラス側の掃き出し窓は常に開閉ができるようにしています。外に行きたい希望があれば、職員が付き添って出かけたたり、併設事業所との行き来を多くするなど工夫をしながら閉塞感のない支援に努めています。	

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して学んだり、職員間の情報交換にて理解を深め、実践へといかしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃる、月1回面会に来られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族へは、不安のないように十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し誰もが投函出来る環境となっている。運営推進会議で出た意見について議事録をご家族に配布している。	家族の面会時には利用者の日頃の様子を伝え、要望等を聞くようにしています。個別の要望が多く、都度対応し、介護計画の変更時に聞いたことはき計画にも反映させるようにしています。外出を増やしてほしいという要望がありドライブの機会を作るなど外出の機会を増やしています。今後、家族が意見を出しやすいようアンケートによる満足度調査を行う予定です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて、カンファレンスを開いたり、日々の朝礼等で職員から意見を聞いている。またキャリアパス制度により年1～2回の面談の機械も設けている。	月1回のミーティングや朝礼時、随時のカンファレンス、日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いています。会議前には書面にて個々の職員に会議への出欠と意見を書いてもらうなど全職員が意見を出しやすいよう工夫をしています。出された意見や提案は実施の方向で検討し、実施後に再度検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標管理シートを作成し、年2回の面談の機会を設け聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の情報提供を行っている。自己啓発の意識を持っている職員も多い。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議に参加し、意見交換を行っている。また、ふれあい祭りで職員同士交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、当グループホームの生活になれるよう、プランに挙げ、特に本人の気持ちに寄り添い不安な気持ちを取り除けるよう傾聴し、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で不安や困っている事の相談を受け、些細な事にも耳を傾け、把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申し込み時に相談を受け、入居が望ましいか他のサービスの利用の必要性を見極めている。面談でのアセスメントでニーズを見出す。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯・掃除等、入居者も役割分担を持って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会をプランにあげ、できるだけ面会に来ていただくようお願いしたり、面会時に本人の近況報告や行事への参加の声かけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を書いたり、地域の行事に参加し馴染みの方と出会えるようしえんしている。	知人や親戚などの面会があり和室や居室に案内し椅子やお茶等の用意をしています。職員付き添いで自宅付近へのドライブや地域の行事に出かけ、馴染みの方と挨拶を交わし会話を楽しんだり、家族の協力を得て散髪屋や冠婚葬祭などに出かける際は身支度等の準備を行っています。懐かしい場所巡りを企画して家族や職員が同行して出かけることもあります。年賀状を出す際は、はがきの準備や投函の支援を行っています。	

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、席の配慮をしたり、職員が間に入り交わられるような配慮も行っている。利用者間のトラブル時には早期解決出来るよう注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今までのアルバムを渡したり、困っている事等相談があれば受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、思いを汲み取れるよう心掛けている。困難な場合は利用者本位のケアカンファレンスを行い、その都度対応している。	入居前の面談で利用者や家族から生活歴や趣味、嗜好、意向等を聞き、情報を得ています。以前に利用していたサービス事業所等から情報を得ることもあります。入居後は会話や様子等で職員が気づいたことなどを個人記録に記載し、随時カンファレンスで話し合い、思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で聞き取りを行い入居日までに生活経歴表をご家族に記入して頂き把握に努めている。その後生活の中で得た情報も個人記録に残し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や状態の変化を個人記録に記入し、申し送りや個人記録より情報収集などに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月介護計画に対してのモニタリングを行っている。担当制をもうけ、計画作成者と担当者との間で相談できるようにもしている。必要時にはプランを見直し、サービス担当者会議を開き、話し合っている。	介護計画は利用者や家族の参加を得てサービス担当者会議を開き、事前のアセスメントを加味しながら話し合い作成しています。必要に応じて医師の意見を反映することもあります。毎月全職員の意見をまとめモニタリングと評価を行い状況に変化がある場合は都度見直し、安定している利用者については1年毎に見直しを行っています。見直し前には再アセスメントを行い利用者の状況を把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアなど、個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。モニタリング時には再度個人記録を見直し、必要に応じてケアカンファレンスを行っている。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応していかなければならない場合が多く、問題点が浮上した時にはチームで解決に向けて対策を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会に入り、行事等を通じ参加し、馴染みの方と交流が持て楽しむ場がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9人中7人が本人や家族の希望により往診対応。どんな些細な事も見逃さないケアに努めている。あとの2名は家族付き添いの受診により健康管理を行い家族を通じて連携に努めている。	入居時にできるだけ今までのかかりつけ医を継続してもらうよう伝えていますが、ほとんどの方が協力医に変更しており、月1回の往診を受けています。体調の変化時は協力医に連絡を入れ状況によっては随時の往診を受けたり、場合によっては法人看護師の指示を受けることもあります。専門医への受診は家族が対応することになっていますが、急な場合は職員が同行し病院にて家族と待ち合わせをすることもあります。3か月に1回の歯科訪問があり、希望や必要時には診療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師やセンター内の看護師とも連携を図り適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看介護サマリーを提出し情報を伝え、病院の相談員と連携を図り、家族と相談し早期の退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化におけるホームの方針を載せ、入居時に説明し同意を得ています。状況に応じて家族や医師と話し合い、看取りの介護計画を立て、最期まで本人や家族の意向に添った暮らしとなるようチームで取り組んでいます。	契約時に重度化した場合や終末期の対応について家族に説明をし、意向の確認をしています。医師から終末期の診断がされた場合は家族に意向の再確認を行い、最期まで本人にとって安楽な姿勢などを検討しながら支援をしたいと考えており、家族の面会を増やしてもらったり、一緒に泊まることのできることも伝えていきます。また、看護師による研修を予定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は内部研修にて学ぶ機会がある。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回のうち1回は消防署の協力の下、避難訓練を行っています。運営推進会議で地域との連携について検討しています。	年2回併設の事業所と合同で昼間を想定し避難訓練を行っています。1回は消防署立ち合いの下、通報や初期消火、避難誘導等を行い運営推進会議で報告をしています。地域の防災訓練には職員が参加しています。また、水や缶詰、乾パン、レトルト食品等を備蓄しています。	職員体制の少ない夜間想定訓練を行うことを期待します。また、地域との協力体制の構築に向け訓練時には近隣の方に案内をし参加を依頼されてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に対しての言葉かけの工夫をしている。接遇・マナーやプライバシーについての研修を受けた職員がホームで伝達研修を行い、利用者を尊重した対応に努めています。	接遇に関する法人内研修を受講した職員が、全職員に伝達し周知しています。日々丁寧な言葉遣いや名前の呼び方にも留意しており、不適切な言葉かけが見られた場合は管理者が都度注意をしたり、会議等で伝え話し合う機会を持っています。排泄や入浴時には希望があれば同性介助等にも対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定しやすいように個々に合わせて選択肢を準備し、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしのペース、希望に沿い、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は月1回の理美容を受ける体制が整っている。洋服についてはご家族に衣替えの協力を頂き、必要な物は一緒に買い物に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季を感じてもらえるよう旬の素材を取り入れた工夫をしている。また、入居者と一緒に作ったり、片付けなどを一緒に行っている。また食事レクやおやつレク等の企画をし、持っている力を発揮していただくケアの実践をしている。	食事は週3回昼のみフード会社から調理済みのものが届き、温めて提供しています。それ以外は事業所で在庫の食材を見ながら、利用者の好みや戴いた野菜等を取り入れ献立を考え、足りない食材の買い物やもやしの根取り、味見、ソース作り、洗い物など利用者にはできることに携わってもらっています。行事や鍋物の時は職員も一緒に食事を摂ったり、面会時に家族と一緒に食事をすることもあります。寿司などの外食やホットケーキなど手作りおやつも楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェックし、個人記録に記入している。月1回体重測定を行い、体重の増減を把握し、糖尿病の方は家族と相談し、毎食食糖尿食の提供としている。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら口腔ケアをする方以外を対象として声掛けをしている。介助のいる方は自力で出来る所までされ、仕上げ磨きを行っている。口腔ティッシュや舌ブラシ、歯間ブラシ等を使用し、一人ひとりに合った物を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿量の多い方はトイレの声掛け回数を増やしたり、個々に合わせたケアを常に職員間で検討し自立に向けたケアをしている。	トイレでの排泄ができるように下肢筋力低下の予防にも努めながら支援しています。個々の排泄記録をとり、支援の必要な方についてはサインも見逃さないようにし、個々に合わせた声かけやトイレへの案内をすることで、失敗が減った方もいます。家族からの声も考慮しながら排泄用品の使用を減らしたり、排泄用品の種類や支援方法などについてケアカンファレンスで話し合い、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を提供し、散歩の支援も行っている。また水分補給に努め、夏はお茶ゼリーなどを毎日作り、提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本月水金であるが、拒否のある方は声掛けの工夫をしたり、人を変えたり時間をあけたりと対応しみかん風呂など入浴を楽しんで頂いている。	入浴は週3回以上を目途に日中に入ってもらい、希望があれば回数を増やすことも可能です。浴室は床暖房を入れており脱衣所にはエアコンを設置し気温差にも注意を払っています。好みの石鹸を使用したり、みかん風呂を楽しんだり、コミュニケーションを取りながらゆっくり入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の寝具を使い、安心して眠れる環境づくりをしている。眠気により不穏・暴言・暴力のある方には昼寝も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の方は訪問薬剤管理指導を受け、薬について相談したり、アドバイスを頂いている。往診以外の方は効能書きを持参していただき個人ファイルに綴じ閲覧している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報である生活歴や本人の生活を観察したり、個別ケアを行い一人ひとりの楽しみごとや嗜好品などを把握し、提供できるよう支援行っている。		



グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、喫茶店に出かけたり、希望にそってドライブにも出かけている。地域のイベントでは椅子を準備や、駐車場の確保など協力頂き参加している。	日々の散歩や買い物、ドライブ、地域行事への参加の他、初詣や梅まつり、桜の花見など季節毎の外出も実施しています。当日に利用者の希望聞き、体調に配慮しながら個別や少人数で出かけた、家族の協力を得ていちご狩りに行くなど外出の機会を多く持っています。また天気の良い日はテラスで外気浴をすることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員を対象として、おこずかいとして1万円程度預かっている。自身でお金を持ちたい方には持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で電話をされる方が1名。年賀状到着の際、返事を書きたいとおっしゃる方が2名で、はがきを買いに行ったり、返事が書けたものを郵便局に持って行ったり、家族に渡した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く広いリビングがあり、テーブルやソファの位置は柔軟に変更し、安心して過ごせる空間づくりをしている。	玄関や明るいリビングには季節の花が活けられ季節を感じることができます。様々なソファを随所に置き一人になれる空間を作ったり、和室で昼寝をしたり、洗濯物をたたむなど思い思いの場所で自由に過ごせるよう配慮しています。状況に応じてテーブルや椅子の配置換えをしたり、日々掃除や換気を行い、加湿器や温湿度計を置き利用者の体感を聞きながら快適に過ごせる共用空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設けたり、また和室も自由に使って頂いて思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真や馴染みの物を飾り、自宅で使っていたタンスや布団などを持ち込み、その人らしい居室になるよう努めている。	入居時には使い慣れたタンスやテーブル、椅子、洋服掛け等持ち込んだ家具を家族が配置をしています。安全に動けるよう家族と相談しながら配置換えをすることもあります。また、家族の写真や遺影、電子オルガン、トランプ、ゲーム、好きな本など大切な物や趣味の物なども傍に置き、その人らしく安心して暮らせるよう配慮しています。居室は和室もあり布団を敷いて休む方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり安全に自立した生活が送れるよう工夫し、問題発生時には検討し改善している。		